**SIC**「流通とシステム化分科会」

「流通領域における産業のシステム化の課題

とロードマップの研究」

§１　背景と目的

１．流通領域の問題探索の方法について

現在、小売業協会ではＳＣＭ政策委員会の組織化へ向けた動きが、日本小売業協会ＣＩＯ研究会ステアリングコミティによる提言を基礎に既に始まっている。

参考）小売業協会　提言書

　　<https://japan-retail.or.jp/kouri/wp-content/themes/bones_theme_kouri/pdf/20210323-cio.pdf>

5

２．SIC「流通とシステム化分科会」と日本小売業協会ＳＣＭ政策委員会との役割分担

１）　「流通とシステム化分科会」では、既に組織化が進んでいるＳＣＭ政策委員会（小売業、卸業、食品製造業など）参加者やそのコアメンバーを招き、ＳＩＣの場でも同様のテーマの研究を行うことを当初検討した。

つまり、より幅広い視野からの検討をＳＩＣ分科会で行うことについて検討した。

２）　しかしながら、一部打診して了解は得られたものの、現段階では下記の考え方が適当ではないかと考えられる。

①　既に２のコアメンバーの組織化、ＭＥＴＩを含む関連団体でのメンバーを絞った本音の検討会議の組成（検討にはＮＤＡ締結が必要）が進んでいる。このため、ＳＩＣの分科会で同じメンバーで行うのは屋上屋を重ねると同時に議論が散漫になる危険性無しとは思わない。

②　もっとも、おそらく政策委員会の他の民間企業メンバーの方々が、ＳＩＣの先生方や企業メンバーの研究に貢献することは可能と考えられる。

③　このため、ＳＩＣでは上記政策委員会とは別なメンバー構成で組織化を図り、上記政策委員会のメンバーは、外部メンバーとしてＳＩＣでのヒアリングや情報提供者として参加し、質疑を含め情報を提供し、ＳＩＣメンバーの研究に資することが効果的と考える。

このため、上記の提言書を基礎に、SICの流通システム分科会でも研究をしていくことが効果的と考えられる。

学識の方々や他産業の方々の英知を結集して、提言やアドバイスをいただければ、俯瞰的な視点からさらによい方策が創造できる可能性も高い。学識も多様な学会が関わってくれると有難い。

他産業の方々の新しい技術についての知識を含む「ＤＸ提言」などについては興味深いことは言うまでもない。

３）　流通とシステム分科会の基本方針

①　SIC流通とシステム分科会では、小売業協会ＣＩＯ研究会ステアリングコミティの

提言書を１つの基礎にとして、他の情報収集（特に技術的側面では）を行い、

長期で俯瞰的、かつシステム視点での解決策（IT、制度、取引形態・・・）について、多様な側面からの研究を行う。

Cf.小売業協会の流通SCM政策委員会はこれに対し短期的で具体策についての調整を行う組織ということになる。

②　流通関連の民間企業や関連組織（標準化団体、流通経済研究所、ＭＥＴＩ等）

は、必要に応じ、ＳＩＣの分科会へ外部講師・登壇者としてお招きして、分科会　において、適宜講演を行っていただくこととする。

③　ＳＩＣでの検討は、ＳＩＣの既存会員企業と学識者を中心にして行っていただき、

アウトプットの提言は、政府はもとより流通業界に対し、ＳＩＣから提言していくと

いう役割分担とする。

④　③の結果は、日本小売業協会流通ＳＣＭ政策委員会でＳＩＣからの提言を提案

する機会を設けてもらい、現実を変革する参考資料として活用していただく。

⑤　このため、流通業や食品・雑貨製造業の巻き込みは、ＳＩＣメンバーとしての勧誘として別途行う。

・この場合、ＳＩＣメンバーとして、他の分科会での議論にも参加できることが大きなメリットとなると考えられる。

§２　検討の進め方

１．公開情報である「日本の小売業CIO、CEOへの提言書」の内容を把握する。

　　・執筆のコーディネータは、本分科会主査の学習院大学河合教授であるため、

　　　河合教授から講義とインターアクティブな質疑を集中的に行う。（５月末予定）

２．小売業、卸、消費財製造業の経営層を個々に分科会へ招き、直接実態について

　　質疑を行う。

３．分科会参加企業の持ち回りで、システム分析やソリューション提案のアイデアを

持ち寄り、システムエンジニアリングやシステムデザインの観点から分析検討を

行い、ブラッシュアップを図る。

４．SICの分科会として報告書を執筆し、小売業協会他流通関連団体や経済産業省、

国土交通省などへ提言を行う。

報告書の内容は、

１）　現状把握

１）　システム分析編

２）　システム設計編

３) ソリューション編

以上